

令和4年第9回尾道市教育委員会（臨時会）会議録

日 時 令和4年8月19日（金） 午後1時30分 開議
場 所 尾道市庁舎4階 委員会室
署名委員 奥田委員

午後1時30分 開会

○佐藤教育長 それでは、定刻になりましたので、ただいまから第9回教育委員会臨時会を開きます。

本日の会議日程は、お手元に印刷配付のとおりです。

本日の会議録署名委員は、奥田委員を指名いたします。

これより日程に入ります。

日程第1、議案の審査に入ります。

本日の臨時会は、令和5年度に使用する教科用図書の採択について議案の審査をお願いいたします。議案第34号令和5年度に使用する広島県尾道南高等学校用教科用図書の採択について審議をいただきます。よろしく願いをいたします。

それでは、議案の審査についていかがいたしましょうか。

○奥田委員 よろしいでしょうか。

○佐藤教育長 はい、奥田委員。

○奥田委員 審議につきましては、情報公開の観点からできる限り公開が望ましいと思いますが、本日の議案の審査は採択における適正、公正の確保を期すため、そして委員の自由な意見交換ができるようにするためには非公開が望ましいと思います。

ただ、情報公開は大切なことですので、議事録については公開が妥当と考えております。

○佐藤教育長 ただいま奥田委員さんから非公開という意見が出ましたけれども、いかがいたしましょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 御異議なしと認め、本日の審査は非公開といたします。

ただし、議事録については調整後速やかに公表したいと思います。

これより非公開といたします。

それでは、これより非公開といたしますので、関係者以外の退席をお願いし

ます。

それでは、議案第34号令和5年度に使用する広島県尾道南高等学校用教科用図書の採択についてを議題といたします。

○佐藤教育長 本案については、尾道南高等学校から中野校長の御出席をお願いしております。

校長先生には大変お忙しい中、御出席をいただきまして誠にありがとうございます。どうぞよろしく願いいたします。

○中野広島県尾道南高等学校校長 よろしく願いいたします。

○佐藤教育長 それでは、議案第34号の提案理由の説明を事務局からお願いいたします。

○石本教育指導課長 教育長、教育指導課長。議案第34号令和5年度に使用する広島県尾道南高等学校用教科用図書の採択についての提案理由について御説明いたします。

高等学校の教科書採択は毎年行われることになっており、教科書の採択権が学校管理機関である教育委員会の職務権限に含まれているため、採択をお願いするものでございます。

尾道市教育委員会として、5月の教育委員会会議で教科用図書の採択基本方針を御承認いただき、それに基づいて校内に校長、教頭、教務主任等から成る教科書選定会議を設置し、選定作業を行っております。

この後、尾道南高等学校校長から学校の経営方針、教科書選定の手順、選定結果等について報告をしていただきますので、御審議いただければと考えております。よろしく願いいたします。

○佐藤教育長 ただいまのところまで何か御意見とか御質問ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 ないようですので、それでは令和5年度に使用する広島県尾道南高等学校用教科用図書について、尾道南高等学校中野校長から御説明をお願いいたします。

○中野広島県尾道南高等学校校長 広島県尾道南高等学校の校長の中野と申します。よろしく願いいたします。

まず、お手元に本校で作りました資料がございますけれども、これに基づいて尾道南高等学校の概要から御説明を申し上げたいと思います。

尾道南高等学校は、尾道市立唯一の夜間定時制の高等学校であります。「明明徳」の建学の精神を継承し、生徒個々の生活環境や教育的ニーズに応え、社会の中で自立し自分らしい生き方を実現していくために必要な能力や態度、豊

かな人間性を身につけた人材を育成すること、これを目指しております。

本年度より、文部科学省の指示によりまして、各高等学校において3つのポリシーを策定しなさいということになっております。これをホームページ上に掲載しなさいということになっており、本校の3つのポリシーを令和4年4月1日に、ホームページ上に掲げて、これに基づいて行っていくということにしております。

資料を1枚めくっていただきますとその3つの方針が出ておりますので、御覧ください。

縦1のところに教育目標があります。これは先ほど申したとおりです。

縦2のところでは、グラデュエーション・ポリシー、卒業までにどのような資質、能力を身につけさせるのかということについて掲げております。(1)から(5)まで、こういったような生徒を育成したいということでグラデュエーション・ポリシーを上げております。

縦3ですが、教育課程の編成及び実施に関する方針といたしまして、カリキュラム・ポリシーというところで、特に授業、人間関係づくりということを中心に本校は営んでいくということを掲げております。

縦4ですが、入学者受入れの方針、これはアドミッション・ポリシーであります。こういったような生徒に高等学校に来てほしいのかということ掲げて、これに基づいて学校教育を行っていくことにいたしております。

次のページを御覧ください。

令和4年4月1日、私から職員へ今年度はこういったような形で進めさせてもらうよということで、職員会議で最初に出したものであります。

昨年度の反省を基に今年度の学校目標を設定いたしております。

この中の、一番上にある育てたい生徒像と資質、能力というところにつきましては、3つの方針のグラデュエーション・ポリシーそのままであるということです。

その次の枠ですが、現状の課題認識といたしまして、これは昨年度の総括からこういった認識を私自身が持っておりましたので、それを基に本年度の単年度としては大きな目標として休・退・転学をゼロにしていきたいという目標を掲げて、その方略、学校のシステムという部分を変更して進めているということでもあります。

数々進行しているのですが、一番大きな変更点としては担任制をなくすということをしております。担任制をなくすといいますが、全員を担任にするということで、今まで担、副という形でやっていたのですけれども、1学年

2人ずつ、学年に2人ずつ8人教員がおりますので、それぞれを担当という形で当事者意識を持ってもらうということを掲げてシステムの変更をしております。

あと、本校は45人しか生徒がおりませんので、その45人の生徒一人一人についてじっくりとみんなで共有しながら話をしていこうということで、ブリーフィングの時間を取って、それぞれの生徒の情報を共有していくという作業もシステムの中に組み込んでおります。

以下、数々システムの変更等を行っているわけですがけれども、それについても各分掌で行っていることなども下のほうに書いてありますので、こういったことでこの1年はやっっていこうということにしております。

これを基に、次のページですけれども、令和4年度学校経営計画というものを立てさせてもらっています。

4月1日に教育委員会に提示したものを分掌に落とし込んでいって、各分掌のところ、これを基に今年度の目標等を掲げているものがこの学校経営計画ということになっております。

休・退・転ゼロということですがけれども、これは昨年度、休・退・転率が17%と結構多く、教員の当事者意識、それと生徒との対話ということを重要項目に上げて、とにかく1人も置いていかない授業改善、これを目指していこうということでスタートをいたしております。

とにかく、教職員のベクトルを合わせながら業務遂行ということを行っております。

今年度は、こういったような学校経営計画に準じた形で先生方の業績評価というのも3つの柱、まず全員担任ですので担任業務のこと、それから授業です、それから分掌と、この3つのことについての業績評価書にしてほしいということで、それぞれの項目というのを合わせて業績評価を提出してもらっているということでもあります。

こういったような方針に基づいて、今年度に入ってからすぐに教育課程の検討委員会というのを実施しまして、今までのものを大分変更しているのですがけれども、今後こういったような形で尾道南高等学校を運営していくかというようなことで、新しい教育課程というものをつくり上げていっておりますので、それに基づいた形で今日の教科用図書の採択ということになってくるだろうと思います。

これについて、続けて御説明をしていきたいと思っております。

教科書採択については別の資料になります。

○佐藤教育長 表が令和5年度に使用する尾道南高等学校教科用図書採択についてという資料でしょうか。

○中野広島県尾道南高等学校校長 そうです。2点どめの、令和5年度に使用する尾道南高等学校教科用図書採択についてというもの、こちらを御覧ください。

まず、1ページ目ですけれども、こちらが今回採択をお願いする教科書の申請書になっております。詳細につきましては、後ほど御説明をいたします。

続きまして、本校の教科書採択の流れであります。

1枚めくっていただきまして、本校の教科書採択の流れが出ておりますので、御覧ください。

まず、5月に決定された採択方針に基づき、校内に教科書選定会議を設定いたしております。

ただ、先ほど申しましたように、本校は生徒数が45人ということで、教員の数も各教科に1人ずつということになっておりますので、校内選定会議としてはほぼ全ての教員が関わっているという状況になっております。

教科書選定会議につきましては、4ページを御覧ください。次のページです。教科書選定会議等についてという別紙様式1になります。

選定会議としては、校務運営会議というところが選定会議を兼ねて、選定しているというような状況になっております。

校務運営会議のメンバーですけれども、教務部の教務主任、それから生徒支援部となっておりますが、これも本校は今年から生徒指導部という名前を生徒支援部に変更しておりますが、生徒指導主事、それから、進路指導部も進路支援部と名前を変えさせてもらっていますが、進路指導主事。そして、総務保健部の総務主任になります。あと、校長、教頭、事務長という構成メンバーにしております。

教科書選定に関わって、教職員以外の構成員についても御説明をいたしたいと思っております。

学校以外のところで学校評議員のお三方を選定委員として入れさせていただいております。これが②になるわけですが、まず学校評議員の高坂評議員ですけれども、高坂評議員は元本校の校長であります。長い教職経験や管理職の経験から、本校の生徒のニーズに応え生徒を育成していくというビジョンを持たれておる学校評議員です。本校に対して的確な助言を常にいただいております。

それから、次の学校評議員の岡田評議員ですが、岡田評議員は尾道市議会の

議員であり、前任の山戸議員から推薦をいただきました。女性という立場からも広く助言をいただいております。

それから、3番目の中司評議員であります。元中学校の教頭であり、現在本校のスクールソーシャルワーカーとして勤務されております。教育相談や生徒指導、それから特別支援教育において優れた実績をお持ちで、本年度も対生徒の知恵袋として協力いただいているところであります。中司先生は、他校においてはスクールカウンセラーとして御活躍をされております。

このお三方に選定会議に入らせていただいているというところであります。

また、教科用図書について調査研究を行うために調査員を設置しております。調査員は採択基本方針に基づき、各教科用図書について、先ほど述べました育てたい人間像、生徒像、これに照らして適切であると判断される3者にまず絞ってまいりました。その報告を受け、選定会議において選定をいたしました。選定会議は4回開催しております。

選定した教科用図書及び選定理由書については、その次、6ページから掲載しております。

それでは続いて、今回の審議について御説明をいたします。

資料5ページの下側の表、令和5年度実施教育課程を御覧ください。

今年度から、平成30年に告示された高等学校学習指導要領が施行されております。高等学校は学年進行で新指導要領が実施されてまいります。来年度は新1、2年生が新学習指導要領に係る新課程となります。そのうち、昨年度御審議いただいた教科用図書については2年生で引き続き使用するものも含めて、現在使用上支障がないと考えております。このまま継続を考えております。

したがって、本日は1年生、2年生で来年度新たに実施する4科目についての教科用図書について御審議をお願いいたします。

また、新3年生以上につきましては、旧学習指導要領に基づく教育課程となっておりますので、教科用図書については関心・意欲・態度、思考・判断・表現、技能、それから知識・理解という4つの観点で選択したものについて、現在使用上支障がないと考えておりますので、このまま継続をしたいと考えております。

ただし、4年生において新たに家庭科において「子ども文化」という科目を実施いたしますので、この科目につきましては教科用図書の御審議をお願いしたいと思います。

○佐藤教育長 校長先生には本当に丁寧な御説明ありがとうございました。尾道南高等学校の学校目標や育てたい子供の生徒像、そういったことも含めて丁寧

に御説明いただいたと思います。

先ほどの御説明で言うと、去年の部分はおおむねよしということですから、2学年において、5ページの表で申し上げておりますが、ここで言う「言語文化」、「文学国語」、「公共」、「生物基礎」、この4教科が新しい部分で、それ以外のところというのは去年から同じ教科書なので、これは問題ないですよという御説明でよろしかったですか。

○中野広島県尾道南高等学校校長 そうですね。

○佐藤教育長 そういうことですね。

3年生、4年生については家庭科のところの「子ども文化」が今回変更の対象だということで審議が必要だということによろしいですか。

○中野広島県尾道南高等学校校長 はい、よろしく願いいたします。

○佐藤教育長 分かりました。

ここで委員の皆さんにお諮りをいたしたいと思いますが、先ほど校長先生からあったように、1年生、2年生については新学習指導要領に基づいて、また3年生以上は旧学習指導要領に基づいてということのようです。現在使用している教科書については特に問題がないということで御説明があったと思います。現在の教科書については、引き続き採択をする方向で整理させていただいていいかどうか、またこれからは1年生、2年生について新たに採択をする4科目について審議をすると。3年生、4年生については、復唱になりますが、変更する「子ども文化」に係る質疑をさせていただくということでお諮りしたいと思いますと思いますが、それで委員の皆さん、よろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 それでは何かご質問はありますか。

○村上委員 例えば、国語の6ページの変更がないものも一括して決議するのですか。「現代の国語」、変更がないですよ、1番目。

○中野広島県尾道南高等学校校長 はい。

○村上委員 下の「現代文A」と「国語表現」の教科書についても、変更がないのだけど、一応今回決議はするのですか。

○佐藤教育長 今日は変更があったり新たなものを校長先生にお聞きして、実際にこの変更のない部分については学校長が問題ない、変更がなくて子供たちに適した教科書ですよという先ほど説明をいただいたのですが、それでいいかどうかはまた後の審議の中で決定をしていく。今日なのか後日なのか、時間の関係もありますので、そういったところで整理がしたいと思っておりますが、今の校長先生の御説明の変更がない部分で気になるようなところがあります

か。

○村上委員 特にないですが、今日、手を挙げて決議するのはこの5冊についての決議でいいのですか。

○佐藤教育長 今日、校長に質疑をするのはこの5つ、決定は全ての教科書の変更があるものも追加のものも含めて全ての教科書を最終的には我々が審議することになります。変更のないものも含めて、最終的には審議させていただきます。

○村上委員 審議して決を採るということですか。

○佐藤教育長 はい。

○村上委員 分かりました。

○奥田委員 ちょっといいですか。

○佐藤教育長 はい、どうぞ。

○奥田委員 5ページのところで質問したいのですが、「公共」です。今この2年生で「公共」を学ぶ、1年生のとき、社会は何をしているのですか。

○中野広島県尾道南高等学校校長 この2年生の「公共」というところは、今の1年生ということになります。今の1年生が「歴史総合」をやっております。

○奥田委員 だから、「歴史総合」だったわけですね。「歴史総合」を1年生のときに学ぶ。

○中野広島県尾道南高等学校校長 そうです。令和4年度の1年生については、「歴史総合」で2年生が「公共」という取り方をしています。

○奥田委員 そうしたことなのですね。それでは、この「公共」は初めて出てくるといえることですか。

○中野広島県尾道南高等学校校長 そうです。

○奥田委員 だから、今度は……。

○中野広島県尾道南高等学校校長 今度は1年生で「公共」を持ってきて。

○奥田委員 そこが動いているわけですね。

○中野広島県尾道南高等学校校長 そうです。

○奥田委員 この社会の動き方のところを、トータル4年間でということはどういう考えでしょうか、説明いただけますか。

○中野広島県尾道南高等学校校長 本校が今、令和5年度の入学者の教育課程案が書いてあるのですけれども、来年度入ってくる生徒の1年から2年、3年、4年と上がっていくいわゆる教育課程、それを今後はずっと、できれば変更がない形でいけたらいいなという形で新たに改定したということです。

下のほうの令和5年度実施教育課程というのは非常に複雑になっておりまし

て、本校は単位制になったというときにカリキュラムの変更を行っています。それから、このたび新課程になったということでカリキュラムの変更を行って、それが全部一括りになっていますので、1年生、2年生、3年生、4年生、それぞれが4年間でやる教育課程というのがちょっと違っているのです。

○奥田委員 そうですね。

○中野広島県尾道南高等学校校長 そういう意味で、その時々のもので出していますので、非常に複雑なことにはなっているのですが、もうベースとして考えてこれからいこうとしているのは令和5年度の入学者の教育課程、これでやっていこうと考えています。

○奥田委員 実際に「歴史総合」をやってみられて、今度の1年生は「公共」がいいだろうと変えられるということですよ。

○中野広島県尾道南高等学校校長 はい。

○奥田委員 そのこのところの判断された理由というのはどういうところですか。

○中野広島県尾道南高等学校校長 まず、「公共」という科目につきましては、これは1年生か2年生でやると学習指導要領には書いています。理由は、消費者教育であり、あるいは18歳年齢というようなことがありますので、早い段階でやりなさいということが指導要領に載っているわけです。

そんな中で、本校としては2年生に設置していたのですがけれども、本校の実態から考えると1年生のときに例えば過年度で入学していると、あるいは以前でありますと例えば2年生に進級できないとかという形、それから他の定時制高校から転入という生徒がおりましたものですから、どうしても年齢が全日制とは違って1年生でも16歳、17歳という高い年齢の子が出てくるという関係で、「公共」はできるだけ早いところがいいだろうと判断をして、地歴の教員と相談をしたところ、「歴史総合」は2年生でも構わないかと言ったところ、「公共」は1年生で大丈夫ですという話がありましたので、今年そういったような会議を経て、1年生から「公共」をしようとしております。

それと、他校の定時制の様子をちょっと教育課程を見させていただいたら、「公共」を1年生に持ってきているというところが多いので、合わせといたほうが、入替えがもしあったときに非常に単位の云々ではうまいこといくのではないかなと思ひまして、変更をしております。

○奥田委員 もう一点、ついでに5ページの表のところでお伺いします。

2年生の上のところの学校設定科目ということで1単位ありますね。18単位目です。下のところ、これは実際この5年度実施教育課程では「文学国語」が入っているということで、この学校設定科目が「文学国語」になったのかな

と。ということは、新入生に向けて教育課程を説明するときに、これは「文学国語」ではいけないのか、そのあたりはどうですか。

○中野広島県尾道南高等学校校長 実は、その2年生にあるところの「文学国語」というのが、これは2年次の「文学国語」と3年次、これは「現代文A」ですけれども、今の2年生が3年生になるとときには実はこの「現代文A」というのが「文学国語」になるのです。「文学国語」が標準単位4単位で分割履修にしているのです。1、3にしておりますので、2年生の「文学国語」というのは3年生の「現代文A」と書いてある、ここが「文学国語」と、2年生のカリキュラムではそういうふうになるということになっているのです。

そういう関係で、新しく入ってきた生徒が2年生になるところとの整合性というのはないのですけれども、2年生のところでは学校設定科目という形にして、ここへ「文学国語」をはめるといふわけにはいかなかったわけです。

○奥田委員 新入生の令和5年度の入学教育課程では、3年の「国語表現」はあるのですか。

○中野広島県尾道南高等学校校長 3年生は「文学国語」ということになるのです。

○奥田委員 この「国語表現」というのはどうなるのですか。これは、令和5年度に入ってくる1年生にとっての4年間の教育課程ですよ。

○佐藤教育長 上の表はそういうものです。去年私が1年から4年までトータルしてどんな教育課程を学ぶのですかといふと、そういう資料が欲しいですねと言った部分に対応してくれたのが上の表だと思います。

下の表は、この令和5年度に1年から4年の者がどんな教科書を使って勉強するのだという表になっていると思います。

○奥田委員 だから、この後、「文学国語」について検討するわけですけど、この教科は、もうこれで今の1年生が終わったら終わるのですか。この新1年生の中には「文学国語」という表現はないですよ。

○中野広島県尾道南高等学校校長 はい。

○奥田委員 ということは、もう履修しないという予定だということですよ。

○中野広島県尾道南高等学校校長 1年生はそうです。

○奥田委員 だから……。

○中野広島県尾道南高等学校校長 新1年生です。

○奥田委員 今の1年生についてのみ「文学国語」が2年でも1単位あり、3年生でも3単位ありということですか。

○中野広島県尾道南高等学校校長 そうです。

○奥田委員 その次は消えると。

○中野広島県尾道南高等学校校長 そうです。

○奥田委員 何かその辺が気になります。ころころ変わり過ぎている。

○中野広島県尾道南高等学校校長 先ほど申しましたように、今一番複雑な状況ですが、新入生からはとにかく教育課程というのをバランスよく整えていこうという話を全職員でやっています。

そのときに、本校の教育課程をずっと見てみると国語がすごく厚かった。時間数が非常に多かったというところで、国語の時間数を減らすというところを併せてしていた。そういったところで、「文学国語」が「国語表現」に替わっているのですけれども、要するにいわゆる標準単位数という部分とうちでやる時間数という部分とをいろいろ重ね合わせて考えたところ、新入生からはこういうふうに変えていこうという結論になっているということで、確かに「文学国語」がなくなって「国語表現」に戻っているというようなどころがあるのですけれども、今の2年生に関して言うと、いわゆる「文学国語」という4単位のところを2年、3年で行っていくという形になっていたのでしたけれども、国語の時間数を変更していくというようなどころを併せて勘案したところ、新しいところでいうと「国語表現」というふうに着いたという形であります。

○奥田委員 分かりました。

○佐藤教育長 私も、おっしゃるようにここへ2年生のところに「言語文化」と「文学国語」があって、選定された本の内容を見たときに、どこがどういうふうに違ってどんな子供を育てたいのかというところの差別化がなかなかできなかったもので、どういう整理を学校でされているのだろうかと思ってしまいました。

今の多分奥田委員が言われていることと全く一緒とは言いませんが、近いところもあるのかなという感じがして、多分単位数の関係で、ここで言ったら例えば「言語文化」がここへ2年生で、3年生が「文学国語」でもよかった、単位数の関係があるのかもわかりません、そういうことですか。ここはちょっと整理の仕方が難しいなあという、国語が2つ教科書入って、そのあたりはどう、さきほどでもうお答えになられているのかもわかりませんが。

○中野広島県尾道南高等学校校長 私もこれを見ていて分からなくなってしまうのですが、全員で話した分では、要するに全体の中の国語というのが非常に厚かったということが実際にあります。その国語を少し減らしていこうという中で、うちの学校の特徴ですけれども、生徒にとってやっぱり、本当は学校設定科目というのをもっと増やしたいという思いはあります。例えば、コミ

コミュニケーションが非常に苦手だとかそういったような生徒も多いですから、そういったような生徒を入れて、何か学校設定科目として加えていくというような方向へシフトしたほうがうちの学校としてはいいのではないかなという結論に至って、新しいところをずっと組み上げた結果、国語はこれ大分減っていると思うのです、単位数として。今の2年生の「文学国語」、2年生の場合は「文学国語」の後に「国語表現」がありますので、そういうふうなところを全体で話をする中で削っていった結果こうなったということです。

○**奥田委員** 最後に、新1年生の学校設定科目は何をされる予定ですか。

○**中野広島県尾道南高等学校校長** これがまだ、一応学校設定科目としては今言ったようにコミュニケーションとかそういったようなところを加えていきたいと思っています。

ところが、それを加えていくためにはそれをどういう形で誰が持つかということもありますので、そこのところを今思案しているという状況になっているのです。それが1単位しかありませんので、例えばその部分にはほかの教科をはめていくというわけにはいかないということです。

○**奥田委員** これから議論になるのでしょうか、ここの2年生、今度の2年生に「文学国語」が入っていますけど、もともとそこに何か学校設定科目というものは、今の1年生が2年生になるときにそういうカリキュラムだったのでしょうか。ここに文化国語が1単位ポツと入ってしまっているのですが、それは問題ないのかなって。いわゆる学校設定科目であれば教科書を伴わないような授業という、それで申請していたのであればこの「文学国語」はちょっとなじまないということになると思うのですが。

○**中野広島県尾道南高等学校校長** 次の5年度の2年生というところですか。

○**奥田委員** はい、そうです。

○**中野広島県尾道南高等学校校長** 5年度の2年生のところと言うと、この「文学国語」というのと3年生のいわゆる「現代文」と書いてありますが、このところが「文学国語」ということになって分割履修していこうと昨年度の段階はなっていたということです。

○**奥田委員** 当初の教育課程ではそういうふうになっているということですね。

○**中野広島県尾道南高等学校校長** そうです。

○**奥田委員** 分かりました。

○**佐藤教育長** 今ついでに科目のところが出ていますから、新課程とは別に今回旧課程の4年生のところを、昨年であれば「服育」という家庭科をあえて「子ども文化」に変えられた理由というのは何かあるのですか。その辺を追加で教

えてもらえますか。

○中野広島県尾道南高等学校校長 現3年次生が4年次に「発達と保育」を学ぶと最初はしていたのですが、この「発達と保育」というのが4から6単位ということで、本校が家庭科で教える4年生の部分というのは2単位しかないということで、そこへ「発達と保育」を入れるということができなかったということが1つはあります。

そののところへ、いわゆる保育、うちの学校の場合はインターンシップとかそういったようなところで、例えば幼稚園に行かせていただくとかそういったことも含めて、やっぱりこういう保育関係の部分を入れたいという思いがあって、「子ども文化」が2単位であったということで、「子ども文化」をここにはめさせてもらったという形になっています。

○佐藤教育長 よく分かりました。ありがとうございました。

ほかによろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 ないようでしたら、校長先生、教科科目別に選定経過等について御説明をお願いします。

科目ごとに大体校長先生から5分程度の御説明をいただいて、質疑や応答の関係で5分程度、たくさんあれば調整をいたしますけれども、1教科当たりやり取りも含めて最大15分程度にしたいと思いますが、皆さんよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 それでは、国語科の「言語文化」からお願いします。

○中野広島県尾道南高等学校校長 国語の「言語文化」ですけれども、本校で選定したのが「第一学習社」の教科書であります。

なぜこの「言語文化」ではこの教科書を選んだのかというところであります。選定理由でありますけれども、これは資料に書かせていただいております。

本校の実態は委員の先生方も御存じであろうと思いますし、そういった中で、どうしても分かりやすいというものが最初に選定理由としては上がってまいります。B5判です。ちょっと大きめの判になっています。こういったようなところで、そこにありますようにカラー写真とかカラーの図版というのが非常に豊富であるというふうなところ。それから、基礎学力を定着させるためにはこういった使いやすい、小説なんかが入ったような取り組みやすい教材が一番いいだろうということで、「言語文化」に関しては「第一学習社」を選ばせていただいているということであります。

国語の教員が申しますに、やはり「言語文化」、それから次の「文学国語」ですけれども、これはちょっと難しくなっているというところがありますので、そんな中で、本校の生徒にとって一番なじみやすいというのはどこだろうかということで選定させてもらっているということになっております。

それから、「文学国語」ですけれども、「第一学習社」でいいのではないと私も思っていたのですけれども、あえて「大修館書店」ということで上げさせていただいているのは、これは選定理由の中にどういう材料が教科書の中にあつたらうちの生徒が食いついてくれるかということを考えてときに、この「大修館書店」の教科書には中島みゆきさんの糸とか歌詞が並んでいて、それを読み解いていくというふうな、割と生徒が食いつきやすいような内容になっているというところで、「文学国語」に関しては、これは4単位あるわけですけれども、「大修館書店」の「文学国語」を選ばせていただいているということです。

以上であります。

○佐藤教育長 ありがとうございます。

「言語文化」について御説明をいただきました。委員の皆さんから御質問等があればお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○村上委員 デジタル教材が付録みたいな形でついてくるではないですか。例えば、羅生門を読んでくれるとか、動画で。そういったものは選定の際に斟酌されたのですか。例えば、これを高校生になって自分が読めばいいのだけど、いろんな子がいるので、耳から聞いたりしたら余計覚えやすいとかというような子もおられると思うのですが、そこはどうです。数とかそういうのは、検討されたのですか。

○中野広島県尾道南高等学校校長 そういう視聴覚教材が一緒についているというふうな……。

○村上委員 二次元コードね。スマホで誰でも見られる。

○中野広島県尾道南高等学校校長 そうですね。そういったようなところまで比べたかどうかというところは分からないのですけれども、今こういったような大型提示装置を使って視覚的に訴えていくというのは、授業でも積極的に取り組んでいるところです。ですから、そういうところが選定の中にあれば一番いいのかなと思うのですが、なかなかデジタルで授業展開をしていくというところまでは本校の実態として、事実いってないのです。

ですから、生徒にも分かりやすいし教員の側としても使いやすいという部分で言ったときに結果的にこうなっているということだと思います。

- 村上委員 家へ持って帰ってどれだけの生徒が宿題ってやられるか、仕事もあるでしょうから忙しいのかもしれませんが、家に帰ってきてそれを学習できるので、定時制の子としてはいいのではないのかなと思うのですけれども、なるべく多いほうがいいかなと思います。
- 中野広島県尾道南高等学校校長 そのところは重きを置いて選んだということではないです。
- 村上委員 他者と比較してというのがあるので、どの程度その部分について比較しているのか比較してないのかなと。
- 中野広島県尾道南高等学校校長 デジタル教材のところまでは比較をしてないと思います。
- 豊田委員 来年度入ってくる1年生が「現代の国語」、それから2年生で「言語文化」、それから3年生で「現代文A」ですか、その3者のジャンルに取り入れられている内容とか、それから小説でもいろいろなものがありますので、時代背景もあるでしょうし、そういったものがバランスよく取り込んであるのでしょうか。教科書会社が違いますので、教科書会社が同じであれば幾らか系統性とか選ぶ作品についても流れがあるかと思うのですけれども、そのあたりはどうでしょうか。
- 中野広島県尾道南高等学校校長 正直申し上げて、いわゆる教科書として考えられているような流れに沿って本校が選んでいるということはないです。
- 本校に入ってくる生徒というのが、例えばまず評論というのは読めない。数学でもそうですけれども、ルビがあっている教科書を使うというところなので、いかに生徒の実態に合っている、教科書を見たときにです。こういう題材が使われているからこういうところで展開できるかなあと、そういったようなところに重きを置いて選んでいるということです。
- 佐藤教育長 ほかにいかがですか。
- 木曾委員 生徒の実態に合わせてということではあるのですが、導入部分で楽しいとか興味を持ったときにこれを発展的に学ぶとかということにも対応しているのですか。
- 中野広島県尾道南高等学校校長 それは一応考えてはいるのですけれども、1年生から2年生、3年生、4年生というふうに年次進行について、難しくなっていますし、ただどこを完成として見るかということと言うと、うちの場合は例えばよその学校では2年生で完成と思っている部分を4年間でやるという、そういう見立てで教科書は選んでいます。
- 佐藤教育長 ほかにいかがでしょうか。

○**豊田委員** 先ほどの校長先生の御説明の中にありましたのですけれども、尾道南高等学校では国語の時間が非常に多かったと、国語に関する時間が多かった、たくさん時間を取ってあったというお話でしたが、それはどういう実態と即応してそういうふうになっていたのかということをお教えください。

○**中野広島県尾道南高等学校校長** 以前ですけれども、以前の本校の実態ということであると、やはり文字自体がなかなか認識しづらいという生徒がかなりいたと、それを何とか学校教育の中で補っていくと、そういう意味でやっぱり国語の時間を厚くしていかないと、例えば次の数学、理科、そういったようなものも、やっぱり文字を読んでいろいろ学んでいくというような部分になりますので、そこを厚くしていったという経緯があります。

○**豊田委員** その実態はとてもよく分かりました。多分、小学校からいろいろな子供を見ておきますと、文字に興味を持つとか文字に対して興味を持ってもらうほかの教科も頑張るとかということはよく分かりますが、尾道南高等学校でそういうようにしてこられたものを今度は変えられるということについてですけれども、今の教育の流れもあるでしょうけれども、何か子供の実態として変わってきているものがあるから、そこを厚くしていったほうがいいとなったのか、教えていただきたいと思えます。

○**中野広島県尾道南高等学校校長** 例えば、時間が幾らでもあるということであると国語の時間もやっぱり欲しいところです。ところが、今バランスを整えているというのは、どうしても定数法の関係でうちの学校の教員の人数が増えるということはないのです。そういったようなときに、各教科1人というところでどういうカリキュラムを組んでいくかということをお考えたときに、国語をものすごく厚くしてというわけにどうしてもやっぱりいかななくなっているという実態です。

ただ、今入学をしてくる生徒、特にこの1年生ですと、中学校のときに全然学校へ行けなかったという生徒が幾らかおられますけれども、幸いうちの学校へ来て1学期が過ぎましたけれども、みんな来ているという、そういう実態もありますので、そしたら学び直しというのほどこの教科でも最初の部分でやりますので、そういったようなところで補いながらできるのではないかという判断に至っているというところでもあります。

○**佐藤教育長** ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○**佐藤教育長** ほかにないようですので、次に「文学国語」に入りたいと思えます。説明をお願いいたします。

○中野広島県尾道南高等学校校長 「文学国語」です。

「文学国語」も先ほど申しましたように、「言語文化」と同じように、もう「文学国語」4単位ということになるとかなりレベルとしては上がってきているというところで、そんな中でも一番食いつきやすいといえますか、そういったような題材があって、生徒にとっても親しむことができるという部分で言いますと、先ほど申しましたように「文学国語」でいうとニューミュージックなんかの歌詞を題材に使っているというところもあり、割と斬新な教材が組み込まれているというところがありますので、これを採用させていただいているということになっています。

○佐藤教育長 はい、ありがとうございます。

「言語文化」では何を学んで、この「文学国語」では子供たちはどういったものを学んでいくのかという基本のところは分かってないので、どうして第2学年でその2つの教科書、3年にもいくのですよとさきほど御説明いただきましたけれども、何か似通った傾向のものだなと思うのですが、そのあたりでそれは似通った題材だけこういう角度で学んでいくのですよと、そういう力をつけていくのですよというのが、もし教えていただける部分があれば教えていただければと思います。

○中野広島県尾道南高等学校校長 私も国語は専門外なものですからよく分からないところもありますのですけれども、国語の教員に聞くと、とにかく「言語文化」、それから「文学国語」と。「言語文化」は1年生でやる「現代の国語」なんかに比べたらかなり難しいと、さらに「文学国語」は難しいということで、はっきり申しますとなかなか選べる教科書がないという実態はあります。

○佐藤教育長 題材のところというのはほとんど変わらないのですね。基本のところはそういう理解でいいですか。それとも違いがあるのですか。

○奥田委員 私もお伺いしてみたいと思っていたのですが、1年生で「現代の国語」、これは昨年度審議しましたが、そのときはこの中に小説とかがなくて評論文主体で選んでいったのではないかなと思います。蓋を開けてみるとちょっと文学作品が入った教科書もあったとかと話題になったところですが、これはそういう「現代の国語」、2年次では「言語文化」というような、今「言語文化」を見させてもらおうと古典とか幅広く「国語1」的な感じですか。古典がちょっと中心、それは現代文も入っているのですが、イメージで言えば古典のイメージがちょっと強い感じですか。

3年で今度は「国語表現」、今の生徒は3年生で「文学国語」をやるということで、その次、今の1年生は「国語表現」の2単位に変えるということのよ

うですけど、「国語表現」といったらいわゆるもう技術的なことというよりは、文章を書いたり、どういうふうに現代文で表現していくかという世界に入りますよね。だから、それぞれ求めているところが違う。

もう少し言いますと、「言語文化」が2単位を3単位にしてそれでいけなかったのかなど。次、今の1年生でイメージとして考えておられるのは、いわゆる「国語表現」が2単位ずつやっていくっていうイメージですから、ここで「国語表現」、「言語文化」があってであれば、ここを3単位にしてという、あと次も3単位あるのか、だからそれは難しいということですかね、人間的なところもあって。少し、ちょっとその辺の今の1年生と大分持ち時間数といたしますか配当が大分違ってはきていますね。それは職員の配置の関係もやっぱりあるのですか。

○中野広島県尾道南高等学校校長 正直申し上げて、職員の配置の関係と、それから時間割です。時間割をどう組んでいくかといったときに、本校は20単位しかありませんので、その20単位の中で、考えていったときにもう時間割も決まってしまうのです。そういったときに、いろんな手が打てないというところがあります。

○事務局 失礼いたします。

まず、必修の科目として「現代の国語」とそれから「言語文化」というこの2つがあるということになっておりまして、「言語文化」は主に我が国の言語文化への理解、関心を深めるというところで、古典や近代以降の文章を読むことを通して我が国の言語文化を理解する、それを社会や自分との関わりの中で生かす学習という、こういったようなことを深めると。

1年生の「現代の国語」は、実生活、実社会に生きて働く国語の能力を高める、情報収集、解釈、論述とか、そういったようなことを通して学習をしていくという、これが基本的なところにあるわけですけど、その上に、選択科目として今選ばれている中でいうと、「文学国語」で言えば小説とか随筆とかいろんなものに描かれた人物の気持ちや情景、そういったところを読み味わう中で、表現の仕方等を評価するっていう、「言語文化」で理解、関心を高めて、それをさらに専門的に文学の世界でさらに深めていったりよく読み取ったりとかというのが「文学国語」。

「国語表現」というのは、今度は自分の思いとか考えをまとめて、それを他者に伝える能力を育成するっていうコミュニケーションに重きを置いたような、そういったような科目になるのかなというところなんです。

ちょっと説明をしてもなかなか難しいかと思うのですけれども、そうい

ったようなところですよ。

以上です。

○佐藤教育長 ありがとうございます。

言葉的なものというのは分かりました。具体的にはなかなかイメージが難しいかなあと。

いかがでしょうか。

でも、「言語文化」にしても「文学国語」にしても、1年のときの「現代の国語」のレベルと比べたらかなり見ていて難しい部分に尾道南高等学校は取り組んでいるなという感じは受けたのですが、これが一番「文学国語」の中でも平易な内容の教科書を選んだのですよとさっき校長先生は言われたのですが、もうそういうことですか。

○中野広島県尾道南高等学校校長 そうです。

○佐藤教育長 去年の段階でルビの話があって、どの教科書にルビがあったかと事務局に聞いたら、数学の部分にルビがありましたと、一部国語にもということもあったのですが、今回の教科書を見てみても、ほとんど我々が読んでも多少悩むなというところはルビが打ってあるけど、ほとんどルビがないですよ。なかなか進捗とかそういう部分で時間の部分のところで担当の先生は何か言われていましたか。

○中野広島県尾道南高等学校校長 教科書を1冊終えることはないと思います。

どうしても、やっぱり1つの題材というのをある程度、簡単な題材を使って時間をかけて教えていくという形になっていると思います。

○奥田委員 カリキュラム全体のことでですけど、情報というのが4年間を通して時間が配当されていますが、この「情報演習」というのは何単位が必修なのですか。といいますのが、例えば1年生1単位、2年で情報が2単位、新1年生でいいますとあと2単位、2単位とちょっと多いなという感じがします。必修はどうなっていますか、情報の科目は。

○中野広島県尾道南高等学校校長 「情報基礎」は必修だと思います。「情報演習」は必修ではありません。情報が、ちょっと今すぐに分からないので申し訳ないですが、恐らく2単位じゃないかと思います。

○奥田委員 でいいのでしょうかね、「情報演習」とか2単位でいいのだろうと思って。そこを3年も4年もかけて継続で4単位やられるという狙いがどういうところに。もう少し言いますと、国語があまりにも減り過ぎているのではないかなという思いがあるので、そういう意見を言いました。

いわゆる4単位は多いかも分からないですけど、3単位はあってもいいので

はないかなと、そういうやっぱり言葉が苦手な、表現が苦手な、そういう、そして心を育てるといふ学校の教育目標がありますよね。そういう中で、やはり国語の教材を通してそういういろいろな情緒的なものを育てるといふのは、非常にそれはそれなりに大切なことではないのかなと。ですから、ほかの関係があるから2単位にしたという御説明もありましたが、情報も今の時代必要は必要ですけど、このずっと2単位2単位と3年、4年でやる情報を少し私は国語に回して、もう少しいろいろな生徒の言語発達なり表現を促すというのも教育的な要素としてはいいのではないかなと思うのですけど。

○佐藤教育長 奥田委員、今回の部分でいうと、今年のこの3単位の中のこの2つの国語の中の教科書についてどの教科書がいいかという御議論で、今の部分はその他の項の意見として尾道南高等学校の校長先生に来年以降の検討材料としてという御意見をいただいたという整理をさせていただいてもいいですか。

○奥田委員 それでいいです。

○佐藤教育長 お答えの部分は、もしあればお答えいただいて、ないようでしたら次に向けてこういう意見があったということをお伝えいただければと思います。

○中野広島県尾道南高等学校校長 ありがとうございます。

情報を少しやってみようというの、いわゆる情報というの座学ではない部分というのが大きいです、情報というの。そういう意味で、本校の生徒が取り組みやすいということはありません。

しかも、取組やすくして実習を重ねることによってスキルが身につくと。情報処理検定というのこのたび2人受けて2級に受かりましたけれども、そういったような形で進めていったら社会とまたつながっていくという観点もあって、情報のほうはできるだけ単位数を確保しながら、これは数学の教員が一緒に教えているのですけれども……。

○奥田委員 数学の。

○中野広島県尾道南高等学校校長 はい。そういったところで国語の時間を食っているということになっていますが、貴重な御意見としてまた参考にさせていただきたいと思っています。

○佐藤教育長 ほかにいかがでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 よろしければ。最後、またお話をするとして、次の公民の「公共」に入りたいと思います。御説明をお願いいたします。

○中野広島県尾道南高等学校校長 「公共」につきましては、資料2の別紙資料

の様式2に載っていますとおり、「第一学習社」の「公共」を選ばせていただいています。

観点は1点でありまして、視覚的に学習内容が理解しやすいというところを選んだ基準にさせてもらっているというところでもあります。

以上であります。

○佐藤教育長 ありがとうございます。

○村上委員 ということは、子供たちが食いつきやすいといったらちょっと語弊があるかも知れませんが、学習しやすい、みやすいようなものを中心に選んだということで、例えば社会の諸課題とか題材や興味を、これだけは教えておきたいとかそういった中身よりも、それもあるんでしょうけども、どちらかという子供たちの興味を引くようなものを中心というようにすることですか。

○中野広島県尾道南高等学校校長 教える中身につきましては、当然もう指導要領で決まっているというところで、それに沿って教えていくということになるのですけれども、どうしてもその取っかかり、それを教えるだけの条件というものを整えていくということが非常にうちの学校の場合重要ですので、そういったようなところで最初に考えているというところでもあります。

○佐藤教育長 結構この「公共」の分の教科書を見せていただいたときに、非常に幅広いというのか広範な内容になっているな、これ全部やったら相当ということにはなるのですが、ある程度その主になるところにおいては、例えば新聞であったり、意外とコラムのところが少ないのかという感じで読みましたけれども、そういう副教材との関係はどんなのでしょうか。

○中野広島県尾道南高等学校校長 幅は広いのは広いと思います。いろいろなところを網羅されているという部分があります。

本校の地歴の教員の授業観察をしていると、常に大型提示装置を使いながら視覚的に生徒に訴えかけていくという授業を中心にやっております。

そういったような中で、当然全部を網羅していくというよりも、1つの題材について生徒に深掘りさせていくという授業展開のほうが今はあるのかなと思っていますけれども、そういったようなところで私たちがグラデュエーション・ポリシーとして目指している力がつけばと考えております。

○佐藤教育長 イメージとして広く浅くという感じがすごくして、昨今の高校であれば、それは一定の広く浅くも必要でしょうけど、やっぱり今日的な課題にもっと深く踏み込んで、しかも子供たちがせっかくそういう課題ですから、解はないわけですから、お互いが意見を言い合いながら議論を進めていくという

のにはもってこいの教材といたしますか、科目だと思うので、去年お聞きしたときに、去年の段階では大学へ進学する子供たちはいなくて、専門学校へお一人、あとは就職なんですよという、そういう傾向があったら、いかに社会へ出たときに今日的なところの部分について自分の考えをお互いに持っておくかということが大切になると思うのですが、そのあたりについてこの教科書が妥当なんかどうかというのが私自身もよく分かりませんでしたけど、どんな感じでしょうか。

○中野広島県尾道南高等学校校長 教科の中身的には、今教育長がおっしゃったように本校でも考えていると。特に、公共はそういったような題材を基に自分を振り返ってであるとか社会と重ね合わせてであるだとかということが分かりやすい。分かりやすいというか、そういう展開になりやすい教科書ですので、そういった展開に持っていくやすい教科書ということになっていると思います。

○佐藤教育長 ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 ないようですので、次に「生物基礎」について御説明をお願いいたします。

○中野広島県尾道南高等学校校長 「生物基礎」ですけれども、「生物基礎」に関しましては、選定理由にありますように身の回りの事象というのについて疑問や問い、こういうことを取っかかりとして考えられると、そういったような設定になっている教科書であるということ、それから調べたり、それから協働で話し合ったり、それから自分の考えを発表し合ったりという活動も割と入れ込みやすいという教科書を選ばせていただいているというところであります。それが「東京書籍」であったということでもあります。

以上です。

○佐藤教育長 ありがとうございます。

ただいまの説明ですけど、御意見、御質問等があれば受けたいと思いますが、いかがでしょうか。

○村上委員 この「東京書籍」の「生物基礎」ですけれども、デジタル教材へ二次元コードから飛んでいくのですけれども、これを見たら中学校の学習内容に飛んでいくような感じなので、これは復習ということとそこに飛んでいるのかなと、学び直しというか、そういうふうと考えてよろしいですかね。

○中野広島県尾道南高等学校校長 そうです。

○村上委員 はい、分かりました。

○佐藤教育長 ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 ないようですので、引き続き旧課程の家庭、「子ども文化」に入ります。説明をお願いいたします。

○中野広島県尾道南高等学校校長 「子ども文化」です。

すみません、この「子ども文化」につきましても、もう教科書が1者のみということになっておりますので、この教科書にしているということでありませう。先ほど申しましたように、「子ども文化」を入れた理由としては、2単位のものであったということと、「子ども文化」の中身としては遊びとかというものを自分でつくっていくみたいな、そういったような中身になっているのですけれども、保育関係を中心に進めていくためにこの「子ども文化」を入れたということでありませう。

以上です。

○佐藤教育長 そこでお聞きしてみるのですけれども、本を読ませていただいたら、子供の遊びとか祭りとか祭りに参加している子供の様子とか、そういう部分でした。

事務局と話をする中で、先ほど校長先生が言われたように、インターンシップ等で保育所であるとかそういう就学前の子供たちに関わる仕事を目指している者にとっては非常にいい部分だろうと。自分が今まで主観的に育ててきた部分と、今自分が大きくなってその子供たちを客観的に見る部分と両面をという、そういう部分では非常にいいだろうと思って。

でも、今の尾道南高等学校の子供たちにマッチングしているのだろうかという視点のときにちょっと疑問だったのですが、そのあたり担任をされる先生方の御意見もあってこの2単位のこの分を選ばれた、もう教科書はさっき校長先生が言われたように1者しか、しかも文部科学省がつくったというような部分ですから、基本的にはなぜこの「子ども文化」を選んだのだという、そこしか我々が議論をするところはないのです。

ちょっとこだわったようにお聞きしていますけど、ほかにも多分その2単位の家庭科でほかにも何もなかったのか、あったけれども、さっき言われたような要素でこれになったのか、教員が教えやすい内容だったのか、多分いろいろあるのだろうと思いますけど、そのあたり教えていただけますか。

○中野広島県尾道南高等学校校長 1つには、2単位という制限があったというところで「子ども文化」、言ってみれば後から入ったという形にもなるのですけれども、ただ実際にこういうことをやられているわけではないのです、うちの学校で。だけれども、例えばこういったような生徒、要するに子供です、子

供と接するとか子供が要するになかなか発達段階としてまだまだってというような部分でどういった動きをするのかというところを、生徒と一緒に考えてみるというのは非常に意味があるだろうというふうには思います。

ですから、ある意味、こんなことを言ってもいいのかどうか分かりませんが、学校設定科目的です。それを教科の中に入れ込んでいるという意味での「子ども文化」の選択になったと思っています。

○佐藤教育長 ぜひとも位置づけをきちっとして、子供たちの中にずっとこの教科を学ぶ意図を感じられるような形にしていきたいなど、これに関しては特に思いましたので、よろしくお願ひしたいと思います。

○村上委員 ちょっと見せていただいたのだけど、私はてっきり家庭経営とかそこら辺にターゲットを置いているのかと。例えば尾道南高等学校の生徒が早く結婚したり保育士さんになったりする場合は当然なのですが、そうならない方のほうがどちらかといえば多いと思います。そこで、今子供を育てるとか家庭を経営していくとか、兄弟とかというのがたくさんいないので、直接子供を見ることができない、自分の家庭を持って初めて子供に触るというような形になるので、そこかなとちょっと思ったのですが、そういう意味はないのですか、どうでしょう。

○中野広島県尾道南高等学校校長 もちろん、そういう意味合いもあります。自分がこれから子育てをする、そういう意味では「発達と保育」というのが一番ぴったりくるのですけれども、その4単位のものが入れらなかったというような部分があります。

○奥田委員 インターンシップについて、お伺ひしてみたいのですが、全ての生徒はインターンシップを経験するのでしょうか。

○中野広島県尾道南高等学校校長 一応カリキュラムの中に、これも今年からですけれども、インターンシップというのを入れております。

ただ、インターンシップの中で、実際にインターンシップをするのは2年生と3年生ということにしているのですけれども、その2年生と3年生の中に修養のためにインターンシップを行うという制度と、そればかりではなくてどこかの学校を見に行きたいであったり、あるいは職場訪問をしたいということであったりというのも全部ひっくるめてインターンシップとして全員がしようとしております。

○奥田委員 教育課程でいいますと、どの科目をインターンシップに活用しているのですか。例えば、来年度の実施教育課程表でいいますと。

○中野広島県尾道南高等学校校長 これは主に総探ということになります。

- 奥田委員 総合的な探究ですね。
- 中野広島県尾道南高等学校校長 そうです。
- 奥田委員 総合的な探究の時間を利用してインターンシップ、それぞれ進路に応じたようなインターンシップを経験させていると。
- 中野広島県尾道南高等学校校長 はい。
- 奥田委員 「子ども文化」という教科を入れることによって、さらにそのあたりのつながりも密接に相乗効果が期待できるのではないかという狙いという理解でよろしいのでしょうか。
- 中野広島県尾道南高等学校校長 ありがとうございます。そのとおりです。
- 佐藤教育長 ありがとうございます。
ほかにどうでしょうか。
- 村上委員 この教科書にはデジタル教材がついてないと思うのですが、それを教えるときにはやっぱりいろいろ大型提示装置とかが必要だと思うのですが、実際見てみないと、視覚的に。それは副教材みたいなので何か考えてはもらえるのでしょうか。
- 中野広島県尾道南高等学校校長 これをどういう展開していくかというのは、私も分からない部分ではあるのですが、うちの学校の先生方がどういう形で授業を展開されているかということ、もう多くは自分のパソコンの中に、教材研究をする中でいろんなところから画像とかを引っ張ってきて、それを提示するという形で、これを「子ども文化」につきましても、やっぱりワークシートとかそういったようなものを使うようになるだろうと思います。その中に、そういった画像を入れ込んでいくということになると思います。
- 奥田委員 「子ども文化」というのは旧課程の科目ということですね。
- 中野広島県尾道南高等学校校長 そうです。
- 奥田委員 ですから、次の今の1年生以降については、表にありますように「保育基礎」に取って代わると。ですから、「子ども文化」で学んでいる内容を、将来的には「保育基礎」の中に生かしていきたいと、こういうつながりで考えているということですね。
- 中野広島県尾道南高等学校校長 はい、そうです。
- 佐藤教育長 ほかによろしいですか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
- 佐藤教育長 それでは、一通り新課程については4科目、旧課程1科目の説明、また質問の質疑が終わったわけですが、校長先生に聞き漏らしたというようなことが、ほかの今回の部分で、5教科の中であればということで。

また、5教科以外でも。

○**奥田委員** 最初に説明いただいた学校経営計画のところで、質問をさせていただければと思うのですが、最初に尾道南高等学校の1ページ目ですか、3つの方針というところで、山口玄洞翁の「明明徳」の精神を継承しというところは、やはり尾道南高等学校の一番根本のところだと思いますので、そういうところを大切にされるというのはすごく必要なことじゃないかなと。

そのために、それが具体的にそういう徳目というか、そういうのを明らかにするためにそれぞれの行動計画が幾らかリンクしているのかというところ、それから転・退学者ゼロを目指すという危機感を持っておられるというのは、私はすごくいいことではないかなと思うのですが、あといろいろ具体的にこういうことをするから転・退学者、今のところはまだ今年度に入っては出てないということでもいい報告もいただきましたが、昨今の傾向として転・退学者が増えているのが気になるというところで、確かに今まではどちらかという濃いほど生徒に教員が関わって、そういう関わりの中で結構尾道南高等学校の生徒として成長していくという姿をいろいろ見せていただきましたので、そのあたりの見通し、その大きな大目標に対して具体的な手だてを立てておられるんですけども、ここがポイントでここがうまくいったらそれが達成できるというような、そこら辺のところの校長先生の見通しなり力点の置きどころというのを聞かせていただければと思うのですが。

○**中野広島県尾道南高等学校校長** 今、奥田委員がおっしゃったように、以前の尾道南高等学校というのはとにかく生徒との距離を近くして生徒の立場に立ち切るという形で教育活動を進めてこられたと思います。

定時制の学校に必要なことは、やっぱりそういうことだと思うのです。生徒と、どれだけ生徒のことが分かっていくかということで教育活動が成り立っていくのではないかなと考えています。

そういうふうには考えてはおったのですがけれども、昨年度私が赴任してまいりまして一番感じたことというのが、随分生徒と教職員一人一人に距離があるなということです。なぜそうなったかという経緯はあるのですがけれども、その経緯があることが分かってはおるのですがけれども、だけこのままではちょっと定時制としての体をなしていかないのではないかなという思いはありましたので、まずは休・転・退ゼロという、この目標を達成するために教職員がどれだけ生徒と対話をしていくのかということの重要性というのに気づいてほしいという思いがありました。

実際、そういったような形で、言葉だけではなかなかうまくいかないのを、

生徒と会う機会を増やすために、今うちの学校では生徒が登校していく時間には必ず先生方は外へ出ましようということにしています。そこで、こんにちはでもいいから声をかけてやってくれというシステムです。こういうシステムにして、そうせざるを得ないと、変な言い方をしたら。そういったことをしてでも、生徒のことを分かっていくということが重要ではないかと思って、こういう目標を立てて、生徒との対話を大切にしながら生徒の気持ちを酌んでいくということに一番力点を置いて全体像をつくっているということでもあります。

当然、コンプライアンスということがありますので、この枠の中でそれを行うということは教職員にもしつこく伝えてはいるのですけれどもということなのです。

○**奥田委員** 本当に生徒が尾道南高等学校で成長していくということが一番の願うことですので、そののところをやっぱり、今までいい部分もあり、密着し過ぎていて課題もあったと認識していますが、基本はやはり尾道南高等学校を生徒が選んで、そこで成長していく、子供たちが成長してくれるという姿が理想ですので、そのところを校長先生は危機感を持っておられて、そういう形でやっていただければと思います。

そういう中で、やはり日常的な生徒との触れ合い、そして授業の中で子供たちと触れ合う、そして子供たちがやる気を持って授業に向かっていくとか、いろいろな子供たちを育てる意識というものは、教員、職員集団が一体となって進めていくということが一番大切ではないかなと思いますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思います。

○**豊田委員** 今の奥田先生のお話に続いて、円グラフ等々を見ておりますと、校長先生が決められたといいますか、ミッションとして出されたことに対して、対話を通して生徒を見ていこうというところで成果が少しずつ上がってきているようなグラフになっています。

きっとこれは、先生方にも校長先生のそういう思いが浸透して、結果として出てきたのではないのかなと思うのですが、私はもう一つ横のつながりといいますか、年齢は異年齢ですけれども、45人生徒がいるわけですから、何かそういう横のつながりが活動を通してつながっていくようなものがあるといい、きっとあるのでしょうけれども、もっとつくってあげられるといいなと思うんです。

それは、学校の中にとどまらず、学校を出ても、近隣でもそうですけれども、何かそういうこともできるのではないかなと。それから、授業の中で生徒同士が討論していくとか意見を交換し合うとか、先生と交換もいいですし生徒

同士が交換するとか、特に実社会にもいる生徒が多いわけですから。多いのですよね。

○中野広島県尾道南高等学校校長 はい。

○豊田委員 そうすると、それぞれの職場とか小さな社会の中でも、自分の立ち位置とか思いがいろいろあると思いますので、そういうものも取り入れた尾道南高等学校らしい動きといいますか、活動がさらに行われるとすばらしいだろうなと思いました。

○中野広島県尾道南高等学校校長 ありがとうございます。

まさに、そのとおりだと思っておりますので、本校の実態でいうと、今生徒会活動というのが徐々に動き出したかなという形です。生徒会が企画した行事には生徒の参加率が非常に高い。できるだけ生徒、結構年齢が多い生徒もおりますので、とにかく教員が手を出さずに、生徒でみんなが楽しめるような企画を考えてねと。やり終わったらもう二度としないとか、しんどかったとか言うのですが、ただどそういったようなことをやることでふだん授業には定着がなかなかしないような子もやってきて、一緒にドッジボールをしたりということができていくので、本校にとってはやっぱりそういったような活動というのが非常に大切なのだらうと思います。

ですから、このコロナに負けずにいろいろな学校行事とかもやらせてやりたいと思っています。

○村上委員 2点ほど。全員担任制のイメージが湧かないのですが、何か先生方の責任というか、子供に対しての責任が希薄になるような感じがするのですが、そのところはどうかかなあと。

それともう一つ、生徒支援部とか、今まで指導部だったですよ、進路指導部とか。その支援部というのは、何か一步引いたような感じがするのですが、生徒の自主性とか、おまえらから言ってこないと教えないぞというような感じなのかなあと。そのところはなぜ変わったのかなと。お願いします。

○中野広島県尾道南高等学校校長 1つ、生徒指導部から生徒支援部と名前を変えている部分で言いますと、目標のところに書いてあったかな、要するにその生徒指導、令和4年度の目標の一番下ですが、生徒に自己決定の場を与えるということが非常に重要なことだらうと思います。生徒がこういうふうに私がこうするというふうに決めさせるというようなことというのは、非常には重要なことだらうと思います。

それを、教員の意図とかそういったようなところで引っ張っていくといったときには、なかなか生徒が自分の意見をポツと言うとか、自分で物事を決定し

ていっていうことにつながっていかないという気がします。

確かに生徒指導が必要なこともいっぱいあります。いっぱいありますが、それをこの生徒っていうのをターゲットにして、その子をそういう自分から物事を解決していけるという人間にしていくという意味では、下から支えていくということのほうが大事ではないか、上から引っ張り上げるのも必要だけれども、下から支えていくというほうがより必要ではないかなという思いに至ったので、指導するというよりは支援するという形に言葉を変えさせてもらったということがあります。

それから、全員担任です。

全員担任制にしたというのは、当事者意識を持ってほしいという思いがまずありました。当事者意識というのは、担任と副担任だったら担任は持ちます。ところが、副担任になると担任に任せてしまうというのがちょっと頭の中に出てきます。そうすると、うちの学校の場合で大体1学年10人ぐらいずつですけども、10人ぐらいを1人の教員が見ていくという体制になってしまいます。

でも、全員45人全員を見ていきましようよと、均等といった場合に、10人を1人で見ると5人5人を1人ずつが見たほうが、これはより深く見られるだろうし、その5人をあてがわれた教員も意識として、この5人はちょっと責任を持ってみないといけないという思いに至るだろうと思いました。

だから、そういう意味では全員が、私はちょっと関係ないと、今年は副担任だからちょっと休憩よではなくて、うちにいる生徒一人一人を理解していくために、今まで2分の1だったのを1で見ていきましようという形にしたということです。

○村上委員 今まで担任、副担任がいたのだけど全員担任にして、その代わり指導するというか支援する生徒を少なくすると、全員担任だと。だから、5人に対してあなたが責任者というような感じですね。

○中野広島県尾道南高等学校校長 明確に5人よ、というふうに分けているわけではないのですが、そうするとまたその5人しか見ないという形になっても困りますので、取りあえず形として、あなた5人分は見てよという意味でこういうシステムにしたということでもあります。

○奥田委員 全員担任制のことで、もう一点お聞きしてみたいんですけど、いわゆる1学年担当の担任という、そういう1年、2年、3年、4年の枠はあるのですね。

○中野広島県尾道南高等学校校長 本当は全部なくしたいですけど、枠はあります。だから、1年生を2人で見ているということになっています。

○**奥田委員** そのほうが責任の所在がありつつ当事者意識もあってということで、私はそういう考え方は、素晴らしいと思います。

○**佐藤教育長** 感想となりますが、去年校長先生が替わられて、100周年の行事があり、教員もまとまったし、子供たちがやっぱり先輩たちから過去脈々と受け継いできたものを感じて、ちょっと変わってきているのかな、いいタイミングだったなあという感じがして、その中で、新しいそれに基づいた目標も設定いただいて、教科も多少何か紆余曲折はあるけれども、来年に向けては一つの形に仕上げられていくという中で、今回の教科書の選定だったのだなあ、非常に難しい状況の中でということで、ありがとうございました。

一応、皆さんのほうでこれ以上の御質問等がなければ、以上で中野校長先生への質問を終結したいと思います。

よろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○**佐藤教育長** はい。それでは、中野校長先生、長時間にわたり御丁寧な説明をありがとうございました。

本来であれば、この後、教育委員会会議ということで審議に入るわけですが、本日はこの後、別途の協議案件が控えておりますので、本日の審議はこの程度にとどめ、次回の8月25日の教育委員会会議において、本日の校長先生からの説明を踏まえて、改めて各委員の皆さんから御意見をいただいて、よりよい教科書の採択をしてまいりたいと考えております。今日はありがとうございました。

特に、校長先生に再度説明を求めるようなこともないと思いますので、あとは事務局から次回は経過説明も含めて行って、それから審議という形を取りたいと思います。よろしく申し上げます。ありがとうございます。

では、継続審査ということにさせていただきます。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○**佐藤教育長** 継続審査ということで決定しました。

以上で本日の日程は終了しました。

これをもって第9回教育委員会臨時会を閉会いたします。ありがとうございました。お疲れさまです。

午後3時16分 閉会